

事業名 公営住宅整備事業「^{うのぼさき}鷲崎市営住宅第6団地」

HOPE計画の推進を図り、街並みの景観に配慮しつつ、伝統的技術と生産性の高い近代的な技術の融合を図る「新遠野住宅」として提案された計画である。広場を中心とするコミュニティの形成や自然環境との調和を配慮した住棟配置計画、柱や梁を露出した真壁工法による耐火性・耐久性・健康性に優れた住宅計画

受賞機関 遠野市建設部建設課
遠野市建設部都市計画課
事業実施期間 平成9年～平成12年
事業費 614百万円

事業等の特徴

HOPE計画で提唱している、地場の素材を活用し、伝統的工法を取り入れた「家づくり」を公営住宅の整備において実践した事例である。計画においては、高齢者向け住宅に若者定住型の住宅を加え、健全でバランスの取れたコミュニティの醸成を図るとともに、住宅の建設にあたり、遠野市最大の地場産業である木材・建築業を取り込むなど地域に根ざした住宅供給を行っている。また、ソフト面でも、市民に向けた家づくりのあり方の講演会、設計事務所や工務店の勉強会や見学会を開催している。



全景

事業の概要と利用者等の評価

市営住宅の整備は、平成6年3月に策定した「遠野市公営住宅再生マスタープラン」に基づき計画され、「民家型工法」をグレードアップさせた新遠野住宅が持つ「遠野の家」「遠野の木」「遠野の技」の伝統継承することを基本理念としている。

配置計画では、全体の構成を3つのコミュニティ（10～20戸）を単位として広場を囲むように配置しており、この広場そのものもコミュニティの「いろいろ」的な役割を果たすように計画している。また、住宅計画では、遠野地域の気候に耐久性が実証されている真壁工法を採用したほか、室内空間では居間、食堂、台所を続き間としたスタイルの延長上に広場を望む「いろいろ」につながる空間となっている。

入居者から、「住まいとして、とても満足している。」との声が寄せられている。

公営住宅は、住宅に困窮する低額所得者に対して低廉な家賃で賃貸しているものであるが、単に住まいとしての住空間があれば良いというものではなく、住む人たちへの優しさ、心の潤いなどが伝わる住宅づくりのコンセプトが評価されていると思われる。

審査委員会委員の意見等

- ・地域固有の文化・歴史が住宅計画に取り入れられている。
- ・プロジェクトそのものについてはよいと思うが、事業プロセスや評価の把握方法が明らかでない。



「いろいろ」